

昨年10月22日(土)明石市立市民会館にて明石市医師会主催の第19回明石市民フォーラム『~どうなる?医療と介護~終のすみかはどこですか?』が開催され、およそ400名の方が参加されました。

筆者は、日ごろ患者家族さまから自宅での介護・療養、介護施設や病院への転院等についてご相談をお受けする医療福祉相談員をしています。そのため、病院の現場で起こっていることを伝える役割として、明石市医師会の先生方、介護支援専門員(ケアマネジャー)、行政の方々と共にシンポジストとして参加させて頂きました。

フォーラムの第1部では、兵庫県健康福祉部 障害福祉局 障害福祉課長 津曲さんが「地域包括ケアシステム」について講演。第2部では、様々な理由で自宅や施設で過ごすことが難しくなった4人のお話を紙芝居にして熱演。その紙芝居を題材にシンポジウムは繰り広げられ、瞬く間の2時間半でした。

紙芝居の4人が困った理由は病気やお金、家の立地や構造、そして医療や介護の社会制度の問題などたくさんあります。しかし、問題解決の主役は社会保障制度ではなく、私たち自身なのです。

フォーラム終了後のアンケートでも、「自分や親が望む最期について考えるきっかけになった」「人生の通り返道へのヒントをもっと発信して欲しい」等のご意見が多く、自分ごととして捉えて下さった方がたくさんいらっしゃいました。

日本人の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になる超高齢社会の2025年はもうすぐそこです。1人で不安を抱えず、まずは身近な人と「終のすみか」について話してみませんか。



もっと身近に。医療と介護

どこにあるの?

私の
家族の

つい
終のすみか

~明石市民フォーラムが
開催されました~



松葉

医療福祉相談室室長
松葉 薫里

